

ながわ

那珂川町郷土史研究会

探訪 79

伏見神社前は、昔、宮ノ前といわれ、古老の話によると大正8年頃から大正12年くらいまで、客馬車が運行されていたそうです。
一頭仕立ての馬車に7から8人の客を乗せて、起点は人參畑（今の博多区博多駅南）から終点松尾橋まで（後に山田まで延長）一区間三錢で一日一往復していたそうです。

裂田溝6

当時、伏見神社前には、時代を反映してか堺屋旅館と松隆館の2軒の旅館が繁盛していました。

佐賀県との県境、アヤベ峠（七曲峠）や塩買峠（大峠）を越えてドジョウ売りや、葉売りなどの泊り客が多かったようです。堺屋旅館には、ヒラクチ（マムシ）を取る人も泊まっていたそうです。

伏見神社東側の裏山に、今でもヒラクチ池が残っていますが、商売になるほどヒラクチが取れていたのでしょうか。また、この両宿は、那珂川八十八カ所巡りの指定宿になっていて（遍路に限り）一泊三食付キ四拾錢、農家宿（一泊三食付キ）三拾五錢。明治十三年庚辰と書いた広告が残っていて、当時の暮らしの一端を知ることが出来ます。宿の前の往還は、平安時代のころより博多から岩戸（那珂川町）を通り、肥前神埼に抜ける重要な街道でした。

明治15年（1882）から、博多蓑島と肥前神埼を南北に直結する

道路工事が始まり、また、昭和6年（1931）からは拡幅工事が開始されました。この拡幅工事で伏見神社の境内を一部切り取り、鯉淵を埋めて新道が開通しました。この工事のときと思われる「昭和6年十月吉日」と記銘された、石段寄附者の碑が鳥居のそばに建っています。

これから行われる山田区の国道拡幅工事に伴い、那珂川町で唯一残っていた白壁つくりの宿（松隆館）も、姿を消すことになりました。残念でなりません。

次に、伏見神社前の国道を南へ600m行った所を、塔ノ原とい

います。
戦国時代の天正14年（1586）、猫城が一ノ岳城の出城だった頃、島津・秋月の連合軍に攻められ、この付近は大激戦地となりました。

この田の中に「塚神社」と刻まれた塚石があります。この石は両軍の戦没者の霊を弔うため、里人が建てたといわれています。塚石の東側の山裾には神埼に向かう肥前・筑前街道が通っています。

道すじに「竜岩」と呼ばれる丸い岩があります。古老の話によると、

この岩は「岩の下のかぼみに竜が住んでいる」ので、竜岩といわれるようになったそうです。また、この山の山頂には「クモッコウ岩」といわれる大岩があります。年の暮れになると竜が竜岩から抜け出し、クモッコウ岩めがけて登って行ったという話が残っています。

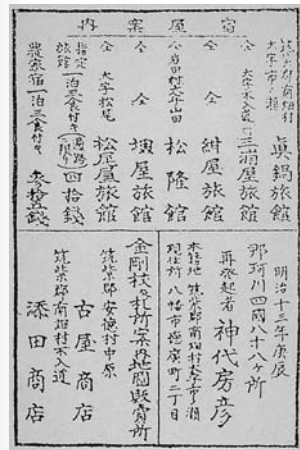
ここまで伏見神社周辺・南側を紹介してきましたが、次号は椿井堰から水路沿いを紹介します。

石段寄附者

昭和6年新道が開通した時の記念碑と考えられます。



御宿 松隆館
(こて絵で書かれた文字)



明治13(1880)年の宿屋案内



松隆館
昔の面影をのこす宿屋



竜岩
タテ150cm ヨコ180cm
竜が住んでいるといわれている岩



クモッコウ岩
1年に1回竜が登ってくると云われていた大岩

伏見神社周辺・(肥前・筑前街道)



塚神社